

非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8 Tel.076-251-0014 Fax 076-251-3930
ゆうちょ口座 00760-0-15689 年会費 3000円(全国紙代含む)

2018年6月20日 月刊第239号 発行／非核の政府を求める石川の会

非核五項目

- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

| | | | |
|---|--|---|--------------|
| 1面 非核石川の会第30回総会を開催 核兵器禁止条約の署名・発効を求める意見 ポスター運動 | 3面 リベラル再起動のために一アメリカの属国を こえよう 白井 聡 | 7面 <独標>夕焼け 編集室より | 船本耕喜 |
| 2面 激動する政局—安倍政権打倒と改憲のゆく え 木下ちがや | 4面 次の世代を育てる大人としてどう生きるか —広島から福島まで— 河野美代子 | 8面 石川の地域点描 シリーズ 絵手紙コーナー 非核・平和の掲示板 | 中西 優 竹味恭子 |
| | 6面 核兵器禁止条約 批准国が10か国に | | |

非核の政府を求める石川の会

第三〇回総会を開催

五月二六日午後、金沢歌劇座で非核の政府を求める石川の会の第三〇回総会を開催しました。冒頭挨拶に立つた五十嵐正博代表世話人は、一九八八年結成当時の「呼びかけ文」を示しながら「昨年は核兵器禁止条約が採択され被爆者とともに歩んだ粘り強い活動が実った一年だった。核廃絶が実現するまで運動を続けよう」と呼びかけ、ジョン・ダワー著『アメリカ 暴力の世紀』を紹介しながら「史実では核ポタンに手をかける寸前であったとの

ことで、偶発的事故をストップさせるためにも核兵器禁止条約の意義を確認したい」と指摘しました。

神田順一事務局長から、県内全自治体の平和施策の呼び起こし、会の三〇年史編集などの方針を提起、その他財政報告、新役員体制なども含めて確認されました。いしかわ市民連合の講演会（二、三面に講演要旨）が後に控えていたため時間的制約があつて論議時間が十分とれなかったことが心残りでした。

神田順一事務局長から、県内全自治体の平和施策の呼び起こし、会の三〇年史編集などの方針を提起、その他財政報告、新役員体制なども含めて確認されました。いしかわ市民連合の講演会（二、三面に講演要旨）が後に控えていたため時間的制約があつて論議時間が十分とれなかったことが心残りでした。

花鳥風月 もはや「茫然自失」
もはるかに越え、形容する言葉もない政権だが、何故か選挙には負けない。これだとい

核兵器禁止条約 発効へ、さあ声を!



被爆国日本
政府はすみやかに署名を。

核兵器禁止条約の署名・発効を求める意見ポスター

「日本政府は核兵器禁止条約に署名を！」の世論喚起のため、非核の政府を求める会の意見ポスターの普及にご協力ください。【関連記事8面】

「民主的人格」とは一体何が問われねばならぬ▼それは「行動と判断の自主性を別の人間に譲り渡すような人間は人格とみなさず、現実世界の諸問題に主体的に参加していくなかで、行動と思想、実践と理論との内面的統一をたえず発展させていくような人間を人格ととらえる。すなわち民主的人格とは、民主的原则に基づいて現実の社会問題と実践的關係を取り結び、それによって自分自身の行動と思想を統一的に発展させ、自分自身の諸能力を統括している人間のことである」が筆者なりの答え▼人格の内実への疑問は、おそらく人間疎外と関係があるう。理想と現実の狭間で自失するばかりでなく、正義をとおし、優れた自治能力を持たなくては、未来も危うい。ただ盲目的に生きるのではなく、誇りある人生を自ら切り開き、より良く生きようとする人間と交わり続けねばならぬ所以が、そこにある。(中)

講演要旨

激動する政局―

安倍政権打倒と改憲のゆくえ

明治学院大学国際平和研究所研究員 木下ちがや

市民と野党の共闘で
安倍政権打倒を説く
木下ちがやさん

倒れそうで倒れない安倍政権

一年前の共謀罪成立から何度も大勢が集まって抗議した。今度は倒れるだろうとの期待のもとに集まることの繰り返し。しかし、これが結構効いている。抗議の波が起こるたび、安倍の企てが次々と不可能になってきた。この一年の政治を振り返ってみよう。

昨年の総選挙は

「安倍政権の勝利」ではなかった

自民党は都議選の歴史的な大敗の後、総選挙で圧勝した。この落差は野党の分裂によるものであって、与党の自力の勝利ではない。内閣支持率は、二〇一七年初頭よりも一〇数パーセント

下げたまま推移している。そんな中で安倍政権は、党内の対立候補を封じ込めて選挙を国民から隠し、朝鮮半島有事を煽って支持率を下支えしてきた。

二〇一八年初頭の安倍政権の野望

総選挙勝利で総裁三選が確実な勢いとなり、今年秋には改憲を発議して成功させ、二〇二〇年の東京五輪に向け権威主義的・独裁的な体制をつくりあげる目論見だった。しかし、①「働き方改革」法案で厚労省のデータ改ざんが発覚。これまで安倍政権は、特定秘密保護法、安保法制、共謀罪など、強権的な国家づくりを優先してきたが、労働法制の規制緩和は、経済界の要求をいれ、連合を取り込み、本格的な新自由主義的改憲にのりだす第一歩だった。データ改ざんは安倍政権への抵抗からリークされ、これに過労死家族や社会運動が呼応することで、大規模な反対運動が起きかねない状

況になった。ここで二階幹事長が官邸に押しかけ、撤回させた。官邸は重要法案の主導権を失い、官邸主導体制の陰りがはつきりした。

② 朝鮮半島と平和への転換。安倍政権にとって、朝鮮半島が危機にあることは軍事大国化を進めるための必要条件だった。しかし韓国の文大統領のイニシアティブで米韓の関係が激変。アメリカのみに依存してきた安倍「価値観外交」（自分たちと価値観が合うところとのみ付き合う）近隣諸国との関係が切れ、情報が入ってこない）が破綻した。

③ モリカケ問題の再燃。一連の朝日新聞によるスクープは、昨年一年間に積み上げられた矛盾を一気に噴出させた。これに自衛隊日報問題などが重なり、全国で抗議デモが復活。内閣支持率は三割程度にまで急落し、昨年の都議選時点のレベルになった。総選挙で分裂した野党六党はふたたび結束し、自民党内の力学も変化。九月の総裁選における安倍三選に赤信号が灯った。

安倍改憲の落日

安倍改憲案はそもそも妥協の産物。「自衛隊明記」という案は、公明、維新、民進右派を抱き込むためのものだった。「国防軍」よりも国民に受け入

れやすくして、とにかく改憲をやり遂げるつもりだった。しかし、

① 総選挙で安倍改憲に明確に反対を掲げた立憲民主党が野党第一党になった。そのため憲法審議会が動かない。それでも二月までは、三月の自民大会に改憲案を出し、憲法審査会を突破して、秋には改憲発議という段取りだった。

② 三月に入り内閣支持率が急落。モリカケ問題は政府への信頼を失墜させ、それと連動して安倍改憲への支持も急落した。また日報隠蔽事件も自衛隊への信頼を失墜させ、「自衛隊明記案」が逆に仇になってしまった。

③ 封じ込めてきた総裁選の対抗馬がうごめき出し、石破ら「タカ派」が、改憲封印を明言し始めた。これから総裁選に向けて「安倍改憲からどれだけ距離をとるか」の競争が始まる。党内力学の変化が、安倍改憲をますます困難にした。

結局、自民大会では明文改憲案を出せなかった。もはや秋の改憲発議は困難となり、来年参院選で立憲野党が三分の一議席を確保すれば、改憲を葬り去る展望が出てきた。

岸信介は改憲でコケた。後継のタカ派池田勇人は改憲を引っ込め、以来改憲は封印された。ここまで改憲を具体

的に進めた首相は安倍晋三が初めて。だからこそ、安倍政権を打倒すれば、保守改憲への取り組みは大打撃を受ける。

安倍政権打倒に向けて

いま必要なのは、安倍改憲反対を超えて、日本国憲法全体の価値を積極的に打ち出すこと。ありえない政権が続いている。現在は、敗戦直後に匹敵するような国家の信頼が完全に失墜した状態。破壊された国と社会を再建するうえで、日本国憲法の価値を高く掲げ、実現を目指していくことが求められている。東アジア情勢は激変している。朝鮮戦争の終結と核兵器のないアジアに向けて、おおきな一歩が踏み出されつつある。歴史的な転換の中で、安倍政権が倒されようとしている。東アジアの冷戦終結で、憲法九条はあらたな意味合いを持つだろう。もつと豊かな発想で憲法九条を語ろう。

安倍政権の打倒を「自民党内の政変」で終わらせてはならない。安倍政権はまさに自民党政治の劣化の産物であり、対抗する野党が新しい政治をつくりあげなければならぬ。官邸前や国会前、各地域での街頭デモ、社会運動が下から安倍政権を倒す。

政治のアンカーをつくりだす

立憲民主党は都市部に強いポピュリズム政党。その役割は野党に票を流し込むための漏斗のようなもの。維新は逆に野党に票を行かせないための防波堤だった。しかし地方議員数を見れば明らかのように、足元の運動が強いのは自民、共産、公明だけ。立憲民主は民意を鏡のように反映して躍進したが、アンカー(足場)が存在せず、社会に根付いていない。地方での足場づくりが急務。各地で野党共闘のさまざまな取り組みがあり、「タテの系列」と「ヨコの系列」が、多様な野党共闘のパターンをつくりだしている。

現在は転換期。既存の社会集団が弱まっていく中で、いま力のある集団の影響力が相対的に高まっている。この総選挙を経て市民運動が政党に影響を与え、政党が他の政党に影響を与える連鎖反応が起きている。野党共闘が進む中で市民運動、野党の相互に化学変化が生じている。この現在進行中のプロセスに、新たな組織化の可能性を見出す必要がある。

(まとめ 中野真紀子)

◎いしかわ市民連合が五月二六日、金沢歌劇座で開いた「木下ちがや講演会」要録です。

講演要旨

リベラル再起動のために —アメリカの属国を越えよう—

京都精華大学講師 白井 聡



講師の白井聡さん

白井氏の講演は、飄々としつつ戦後

日本の問題を多角的な視点で迫った講演となった。本紙では、日本の対米従属原理に関するお話をかいつまんでご紹介する。

「三つの悪徳」

はじめに、現政権の特徴を紹介。これまでの政権との一番の違いは、「三つの悪徳」を兼ね備えているということ。無能、不正、腐敗、これを全て満たすのは非常に珍しいことであり、そのような政権が保たれてしまっているのが現状。また、安倍政権下では極度の対米従属も露骨になっているが、

それを究極に支えているのが投票行動である。絶対的ではないにしても、相対的に支持されているのは現実。では、安倍政権に対して、何を旗印に掲げるべきか？今を見つめ直すと、「普通のこと」ができていない。現状がある。つまりは、「普通」の国民になれていないということ。ここから変えていく必要がある。

「国体」の意味

次に考えるべきは、「国体」の意味である。この解説において氏が用いたのが「永続敗戦論」である。八月一五日を「終戦記念日」と称するなど、「敗戦」ではなく、「終戦」という言葉の重用、社会全体として負けたという事実が誤魔化されたまま通っている。そして、負けていないということは反省も不要。よって負けたときの社会システムが見直されることなく温存・継続され、永久に負け続ける。それが「永続敗戦論」である。

さらに大きな特徴は無制限の対米従属。敗戦国だから当然、という見方もあるが、ドイツをはじめイタリア、フィリピン等は同じ敗戦国でも経過は異なる。日本が卑屈な姿勢を自主的に取り続けていると言っても差し支えない状況にある。

敗戦の否認と曖昧化

この異常な認識の原理は「敗戦の否認」にある。戦争に負けたこと自体は知っているが、その意味を国家として知らない・知ろうとしない状況であり、これは極めて病的な状態にある。敗戦が誰の責任か、ということが軽視され、もはや仕方ないこと(天災)のように扱われてきた。それは岸信介氏や正力松太郎氏のようなA級戦犯の復権など、本来ありえないことが通ってきたことから明白である。

「愛」の対米従属とアジア諸国への強気

この世界に類を見ない対米従属は、一言で言うと「愛」のものと従属となる。「愛」という情緒的な視点は「おもいやり予算」や「トモダチ作戦」などからも読み取れる。日米関係は、普通の国際関係(打算的な繋がり)ではなく、育まれた友情によるものという意識づけ。例として、昭和天皇とマッカーサーの懇談。「無私精神」がマ

ッカーサーの回想録に書かれているが、ここで重要なのは、マッカーサーが昭和天皇の「真心」を理解した、という受け止めである。このような意識づけにより、天皇の戦争責任がうやむやにされ、戦争が、まるで一部の軍人による凶行のような扱いにされてしまっている。しかし、アメリカへの従属でストレスが溜まるのも事実。その発散のために、アジア諸国への強硬姿勢がみられる。そして、強硬姿勢をつらぬくことで、東アジアでの孤立が進み、「従属」と「孤立」の状態がループしているのが現状だと指摘した。

そして憲法改正へ

冷戦構造の消滅、アジアでの突出を背景に、この永続敗戦レジームによって日本は二五年近く「柱のない家」のような状態が続いている。永続敗戦レジームからの脱却が必要なのだが、このレジームの死守こそが安倍政権の狙いである。これは「純化による死守」ともいえる。ここでも敗戦の否認を徹底することが重要となる。ここでの徹底とは何か。それは、ねじくれた反米意識であり、占領改革否定の集大成。それこそが憲法改正なのである。近年は、首相が憲法自体を褒めた上で改正の必要性を訴えるなど、妙な状態

にあり、もはや憲法を辱めているのだと氏は論じた。

リベラル再起動へ

この情勢の中で求められるのがリベラル派のバージョンアップだ。昨年の立憲民主党の結成は、「対米従属党VS自立党」の流れをつくっていくために大きな意義を持っている。この流

講演要旨

**次の世代を育てる大人としてどう生きるか
〜広島から福島まで〜**



講師の河野美代子さん

五月二七日の「人間と性」教育研究協議会石川支部セミナーの全体会には、診療の傍ら、子ども・高齢者・女性の人権、男性の意識向上のため、執筆や講演など幅広い市民活動をしている河野美代子さんに講演をしていただきました。自らの生い立ちから、福島の女性たちとの交流まで、ご自身

れを市民と共に展開していくことができるかが大切になると結んで講演は終了した。

(非核・いしかわ編集部)

◎五月一日、近江町交流プラザで開かれたNPO法人「未来塾・大人の学び」講演会の要録です。

産婦人科医 河野美代子

の体験や活動を中心にしたお話をさせていただきました。

被爆二世として

広島二中全滅の記録である「いしづみ」は全員がどんなふうになくなったか記録されている。その広島二中の教師だった父は、学徒動員で建物疎開に駆り出されていた一年生と教師たちとは離れ、自転車で出かけていて助かった。

通っていた観音中学校では、生徒の六割が被差別部落、朝鮮部落の子どもたちであり、生徒会目標は「差別をなくそう」であった。自身の原点は、中学校の先生に学んだ「差別は絶対してはならない」であった。高校のときは、

演劇部で戦争を題材に全国大会へも行った。大学のときには、核実験が行われたとき平和公園で座り込みをした。そして、医学部を卒業するとき、どんな医者になるかを考え、被爆二世として被爆者や被爆二世の医療に携わることを決意した。被爆医療として染色体の研究を進め、産婦人科になった。そして、性教協とも出会うこととなった。

8・6広島平和の夕べ

被爆者、原爆孤児、被爆二世、遺族などが集まる「8・6広島平和の夕べ」では、中沢啓治さん（「はだしのゲン」作者）を招いたこともあった。広島では、「はだしのゲン」を英語で読むという講座も開かれ、最後の講座に中沢さん夫妻も参加され、『「ゲン」が英語をしゃべったね』とおっしゃった。お線香のにおいが嫌いな中沢さんのお墓はなく、参ることもできないため、「はだしのゲン」の碑をつくりたいと考えている。

原子力発電について

島根原発、伊方原発などの反対集会に参加したり、八丁原地熱発電所の見学をしたり、発電について学習を続けている。

福島では、震災関連死がとびぬけて多かった。そして、二〇一六年には、

九万五一五人の人が避難し、二〇一八年四万六〇八〇人になったが、安全な環境になったから戻ったとは言いがたい。

プルトニウムに関して、東大教授の大橋弘忠氏は、「プルトニウムは飲んでも大丈夫」と発言していた。当人は、東電の役員であり、原子力規制委員会の委員でもある。

また、山下俊一氏は、「放射線のリスクはここにこしている人には来ない」、「毎時一〇〇マイクロシーベルトでも大丈夫」、「内部被ばくの方が一〇分の一で外部被ばくより影響はない」、「外で遊んでもいい」などの発言をし、チェルノブイリの二〇万人の子どもの生涯続く甲状腺がんのリスクが疫学的に証明された反面、日本では一〇〇万人に一人で欧米と変わらないと、甲状腺学会へ通達を出し、各病院に検査を受け付けないようにし、福島県立医大に一本化させた。

子どもの甲状腺がんが診断されているのは一九三人であり、一五五六人に一人の割合であるが、チェルノブイリは四年ぐらいで増えてきたことと比較して、それより早すぎる段階だから大人になって見つかる甲状腺がんが見つかったにすぎないと、原発事故との関連を否定している。しかし、県

立医大は情報を公開しないので信用できない。

福島の女性と子どもたちと

福島の女性たちを支援するプロジェクトをしている友人がつかないでくれた日塔まきさんたちに、被爆二世として学生時代に悩み考えたことを伝えた。それは、「両親の話を聞こう（両親の被爆者の苦労・感謝）」、「何が起こるかかわからないけどその命のすべてを引き受けよう」、「両親の被爆者の血を受け継ごう」、「子どもとともにがんばろう」であった。

自身が出産するにあたって、夫の家族の反対にあい、染色体検査を受け、夫には、「どんな子が生まれても頑張つて育てるから」と伝え、夫からも医師にそういつて欲しいと頼んだ。そういう経験から、福島の女性たちに、『「からだ」を知って賢くなりましょう』、「自分で自分のからだの管理ができる大人になりましょう」、「子どもを産む、産まないは自分で決めましょう」、「子どもと共に闘いましょう」、「子どもと共に、楽しく生き活きと生活しましょう」と伝えた。

今も続く被爆の研究

広島市のHPには、今も続けられている調査や研究について記載がされている。厚労省は「二世への影響はな

い」としてきたが、「被爆二世の白血病発症率は特に両親ともに被爆者の場合に高くなる遺伝的影響がある」とする広島大の鎌田教授の研究がある。また、京大の今中哲二先生は、「放射線はどんな低線量でも影響はある。被曝はしない方がいい」と言っている。さらに、広島と長崎への原爆投下後、被爆者の親から死産したり、生後すぐに亡くなったたりした赤ちゃんのうち、臓器標本やカルテが米国に送られ放射線研究に利用された人数が一二〇〇人以上いたという事実も明らかになっている。

福島の放射線濃度

福島の放射線濃度は今でも高い。福島の子どもたちは、震災以来プールで遊ぶという経験もないまま過ごしている。腫瘍ができるたびに細胞診検査を繰り返している子もいる。

甲状腺がんになった福島の青年学生は、福島県立医大で何度も検査をしていたが、がんとは診断されなかった。妹と北海道で検査を受けるとがんが見つかり、東京の病院で転移性の甲状腺がんと判明した。福島県立医大で手術すれば補助するといわれたが、広島で手術をした。再発を繰り返し、手術を四回も受けている。就職して将来、海外で住むという夢が叶うようにと

願っている。福島で甲状腺がんになっ
た人は、「差別につながるから人にい
ってはならない。」と言われている。

「これからの活動」

各地での再稼働が続いているが、映
画「日本と再生」（「日本と原発」の続
編）での風力、地熱、太陽光発電など
の世界中のルポからも分かるように、
日本でも、危険な原発ではなく、自然
エネルギーを利用した発電へシフト
していくことが求められる。

これからも、広島で住まいの提供と
カンパを続ける。そして、沖縄や福島
の人たちとつながりながら戦争のな
い世界を目指して、被爆者の悲願であ
る核廃絶に向けて行動していきたい。

性教育について

一〇代の少女の性の相手は六〇パ
ーセントが社会人であり、妊娠は高校
生が一番多い。

AVは、大人の男性のマスターベー
ション用につくられたものであるの
に、セックスの仕方をそこから学んで
しまい、知識のないまま真似をするこ
とで危険性が増している。にも関わら
ず「避妊を教えることは家族を壊すこ
と」という考えや「結婚してから避妊
を学べばいい」と発言する議員などに
よって性教育バスティングは続してい
る。

意図的に性教育が押さえつけられ
ている現状を打開できるように、とも
にみなさんと頑張りたい。文科省は、
指導要領の内容にないから中学生に
避妊を教えてはいけない、「性的接触」
という言葉を使うようにとしている。
しかし、中学生に正しい言葉で避妊や
性交について伝えるべきである。どれ
だけの知識をもつて、どういう意識で
社会に出ていくかが重要であり、文科
省は変わってくれないかと思ってい
る。

*フロアから、被爆二世として金沢で
生きている人は差別がひどく隠れて
生きているという現状があること、金
沢で「はだしのゲン」を広める活動へ
の力をもらった等の発言がありまし
た。それらの発言を受けて、河野さん
から被爆者手帳を福島にもというお
話もありました。

(まとめ 金子千穂)

会費のご入金と

「三〇年史」協賛金お礼

早速のご入金ありがとうございます。
「三〇年史」発行の編集も進んでおり、
財政的にも皆さんのご支援に力強く感
謝しています。

引き続き会費と協賛金のご支援よろ
しくお願いいたします。

常任世話人会

非核・平和のつなび

核兵器禁止条約

批准国が10カ国に

核兵器禁止条約は、五〇カ国の批准
書が国連に受託された後、九〇日で発
効します。当面の焦点は同条約の批准
です。ICAN（核兵器廃絶国際キャ
ンペーン）のウェブサイトには国連加
盟国の署名・批准の進捗状況が掲載さ
れており、これまでに五九カ国が署名
し、一〇カ国が批准しています。

【批准国】ガイアナ、バチカン、タイ、
キューバ、メキシコ、パレスチナ、ベ
ネズエラ、パラオ、オーストリア、ベ
トナム

非核石川の会リレーエッセー

映画「ひろしま」を観たこと

升起よみ

私が小学校五年生であったか、六年
生であったか定かでないが、学校から
映画鑑賞ということで、片町の金劇に
連れられて行った。

映画館へ映画を観に行くこと自体、

日常と違う大変なことなので忘れる
ことのできない日であった。

その一つは、五歳の時別れた祖母が
電車通りの向かい側にいるのを見つ
け何とも懐かしく、走って駆け寄りた
い衝動にかられたが、映画館にみんな
と一緒に入場しなければならず、困惑
しながら別れたこと。（それ以後、永
く逢えなかったが、あの時の淋しさが
心に残っている。）

その二つは、映画「ひろしま」を観
たこと。私はあの映画で、戦争の恐ろ
しさ、原爆の怖さを知り、あの時の映
像が頭にこびりついて離れない。その
強烈な思い出は、実体験していない自
分の身体や心に深く刻まれ、今も印象
深い思い出となっている。

又、俳優の山田五十鈴さんや月丘夢
路さんの名前を、この機に憶えました
が、原爆が如何にひどいものかと小学
生なりに、衝撃的にうけとめました。

後に知ったことですが、あの映画は、
広島教職員の方々が一五〇〇万
円の制作費を集め、独立プロダクショ
ンの関川秀雄監督によって作られた
とのことでした。

当時の先生たちの思い「子どもたち
を再び戦場に送らない。戦争は絶対だ
め！平和を守れ！」の決意が一つの映

画に反映されていたものと考えます。こうした映画や運動は、今も脈々と生き続け、核兵器廃絶の願いを実現させようとする世界の潮流にも応えるものです。

今年もまた平和を願い、子どもたちや市民らに伝える活動、行動に力を注いでまいりたいと思っています。

映画「この世界の片隅に」やDVD「この空を見上げて―石川・被爆者たちの証言」をおおいに広めたいですね。

詩人会議かなざわ「独標」より

夕焼け

船本耕喜

いつの間にか

太陽が沈もうとして

辺りを燃やしはじめた。

介護している母の 不在の

今日も一日

何もしなかった。

ただ コンビニへ通いつめ

その駐車場に車を停め

コーラをぐびぐび飲みながら

店へ 出入りする
健康そうな人たちが
うらやましく見ていた。

これで

今日 何本目のコーラだろうと思いつながら

わかっていてもやめられず

身体を苛める自分に

絶望的な気持ちになった。

ふと ひらいた新聞に

書家で ダウン症の

金澤翔子さんの記事が載っていた。

それを読んで

絶望してはいけなと思った。

つらくても

苦しくても

絶望してはいけなと思った。

家へ帰る

道すがら

突然 思った。

何ものかになるう。

自分自身が納得する

何ものかになるう。

ぼくは 強く思った。

(これでいい)と 自分で思える

何ものかになるう。

それが 何なのかは

それが いつなのかは

わかりはしないのだが

前を向いた

その 思いだけは

燃える 夕焼けのように

そのときの

ぼくを

音もなく

熱く 焦がして行つた。

《編集室より》

◎米朝首脳会談が実現し、「完全な非核化」と「安全保障」で合意された。

両国の対立は『核』を背景に激しい脅し合いでもあった。合意声明の具体化の進展を注視したい。

朝鮮半島を含む北東アジアの非核化へ真に舵をきる覚悟なら、両国はじめ、近隣諸国は核兵器禁止条約に署名し、批准することが当然の態度です。

日本は「圧力」一辺倒で、対話の糸口を自ら見出すことができなかつた。戦争をする国づくりから、平和な北

東アジアを担う日本に変身するチャンス。「平壤宣言」を基に真摯な日朝関係の構築を。(平)

◎今年八月に創立三〇年を迎える本会の記念事業として「三〇年史・その後の一〇年の歩み」の編集をすすめています。創立から一〇年、二〇年の節目で非核宣言自治体一〇〇%を実現し、その後の一〇年の歩みでは県内市町の平和首長会議一〇〇%加盟と「核兵器禁止条約」の採択が大きなトピックスになりました。「三〇年史」は、核兵器禁止条約から廃絶を求める国際社会の動きに呼応し、平和首長会議への県内全市町加盟の経緯や「ヒバクシャ国際署名」の取り組みを記載して発行します。この編集作業をすすめるため、元事務局長の故・森昭さん宅から創立以来の資料ファイル(段ボール一〇箱分)を受け取ってきました。当時、森さんが担当されていた「非核石川の会ニュース」綴りは一四九号までありました。一五〇号からは集団編集体制となり、会報「非核・いしかわ」を定期発行しています。創立三〇周年の機会に森さんが保管されていた「非核石川の会ニュース」(創刊号〜一四九号)をCDファイルにコピー保存する予定ですが、次の号(12・15・17・19・24・28・29・30)が欠番です。会員の方でお持ちの場合は事務局までご連絡ください。(か)

シリーズ 石川の地域点描 ㊹

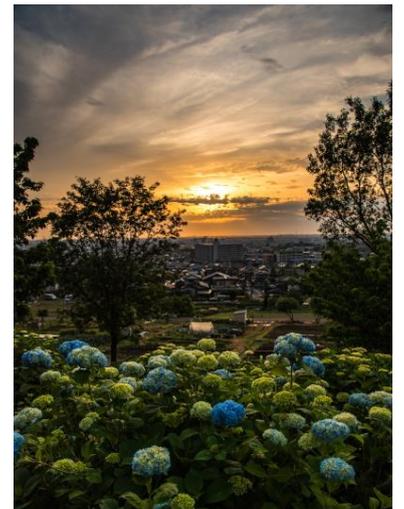
フォトグラフィアー 中西 優

北陸も梅雨入りしました。この「梅雨」という語源について以前から不思議に思っていたので調べたところ、(カビ)という漢字の別の読み方が「バイ」であることから(梅雨(ばいう))からきている説、梅が熟す季節という説、露がたくさん付く時期だからという説など面白いものがたくさん出てきました。

いずれにしても温度・湿度ともに変化が大きい時期ですので、みなさま体調管理にはぜひお気を付けください。



朝日の中で輝く花菖蒲=金沢市・卯辰山花菖蒲園



夕日と紫陽花=金沢市・大乘寺丘陵公園

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

竹味恭子



核兵器禁止条約の署名発効を求める意見ポスター(ハコ判カラー)応募要領

賛同費=個人 10000円

地方団体 100000円

賛同申込みは本会事務局まで

非核平和の掲示板

| 月 | 日 | 曜 | 時 | 内容 | 場所 |
|---|-------------|---|-------------|--|-------------------------|
| 6 | 23 | 土 | 14:00 | 映画「標的の島 風かたか」能美上映会 | 能美市・根上総合文化会館タント小ホール |
| | 23 | 土 | 14:00 | 社保協第23回総会と記念講演「医療・介護・国保をめぐる情勢と私たちの課題」長友 薫輝さん(講演は15:15~17:00) | 金沢市西念・石川労済会館大ホール |
| | 24 | 日 | 9:00 | 平和行進、福井県行進団に引き継ぐ | 加賀市役所から福井県吉崎まで |
| | 28 | 木 | 18:30 | 大人の授業「没後80年・鶴彬と平和」盛岡市から宇部功さん | 金沢市青草町・近江町市場館4階 |
| | 30 | 土 | 13:30 | 社会保障セミナー「相模原障害者施設殺傷事件は医療者に何を突きつけたか」/特別対談 井上英夫さん・藤井克徳さん | 金沢市鞍月2丁目・石川県地場産業振興センター |
| 7 | 1 | 日 | 10:00 | 石川県母親大会・記念講演 伊藤真さん(全体会・13時30分~) | 金沢市三社町・石川県女性センター・ホール |
| | 6 | 金 | 12:30 | 核兵器廃絶署名6・9行動 | 金沢市武蔵町・Mza前 |
| | 7 | 土 | 10:30 | 核兵器禁止条約採択1周年記念・ヒバクシャ国際署名キャンペーン | 金沢市青草町・エムザ口付近 |
| | 22 | 日 | 13:00 | 反核・平和おとづる市民のつどい/「平和の子ら像(卯辰山)建立20周年記念」映画「この世界の片隅に」上映会 | 金沢市三社町・石川県女性センター・ホール |
| | 29 | 日 | 12:30 | 2018年・第11回ピース9フェスティバル「9条改憲アカン」特別ゲスト 浪速の歌う巨人パギヤン 趙博(チョウパク) | 白山市美川中町・美川文化会館 |
| 8 | 2 | 木 | 10:00 | 反核・平和おとづる市民のつどい/平和のパネル展(~16日) | 金沢市鞍月2丁目・石川県庁19階展望ロビー |
| | 5 | 日 | 14:00 | 「これからの日本 これからの教育」講演 前川喜平さん | 野々市市・野々市フォルテ大ホール |
| | 4日(土)~6日(月) | | | 2018年原水爆禁止世界大会in広島 | 広島市内 |
| | 8日(水)~9日(木) | | | 2019年原水爆禁止世界大会in長崎 | 長崎市内 |
| | 9 | 木 | 10:00~16:00 | 「原爆と人間展」展示アピールとヒバクシャ国際署名行動 | 金沢市青草町・近江町プラザ入り口広場 |
| | 15 | 水 | 14:00 | 不戦のつどい2018夏・紙芝居「はだしのゲン」、原爆パネル展ほか | 金沢市・JR金沢駅もてなしドーム地下催し広場 |
| | 28(火)~30(木) | | | 平和サークル むぎわらぼうし「福島を視る・聴く・心に刻むツアー」 | 福島県三春・浪江・南相馬・飯館・裏磐梯など各地 |

* 祝日は休日とします * 毎週金曜日18:30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口 * 毎月15日石川県沖繩連帯デー

本紙「非核いしかわ」のサポート会員を募集中。年間購読料1,500円です。ご紹介をお願いします。